

令和7年度 自己評価書

2026 (令和8年) 3月
学校法人高橋学園
千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉 建学の精神と教育目標

建学の精神「創造」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

スクールミッション (学校教育法施行規則第 103 条の 2 に定める方針)

千葉学芸高等学校 スクールミッション

建学の精神「創造」のもとで、人間性を涵養し、文化の創造を担う有為な人材を育成します。

グラデュエーションポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

「強い精神力と思いやりの心」「知性と判断力」「感性と技芸」を備え、美しい人類文化の創造にあたる人間性と実力を育成します。

- (1) 個々の特性に応じて、学力・技術を磨きます。
- (2) 表現・コミュニケーション力、社会性などの 21 世紀型スキルを身につけます。
- (3) 科学的に理解し判断できる力を身につけます。

カリキュラムポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)

- (1) 美しい人間性と人類文化の創造を目指し、教育目標「心の創造」「智の創造」「美の創造」に沿って教育活動を展開します。
- (2) 時代を超えたテーマである人間性や実力を育む教育と、国際化や情報化など時代のニーズに対応した最新の教育を両立します。
- (3) 一人一人の生徒が持つ優れた特性を見出し、伸長する特性伸長の教育を行います。
- (4) 知識ばかりでなく技能の育成を重視した技能教育を行います。
- (5) 特色ある教育活動として、色彩教育、情報教育、国際教育、福祉教育、芸能教育、公務員教育を展開します。
- (6) 人類共通の価値観を尊重し、「持続可能な開発目標 (SDGs)」を理解し実践する探究活動を奨

励します。
アドミッションポリシー（入学者の受け入れに関する方針）
(1) 高等学校で学ぶための基礎学力を身につけた生徒。 (2) 高校生活で、まじめに努力する生徒。 (3) 学業やスポーツ、文化活動など、さまざまな特性をもつ生徒を歓迎します。

〈2〉教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》 (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》 (1) よい伝統と、よい校風をつくります (2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます (3) 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、令和7年度の目標を以下のように設定した。

令和7年度学校目標 『One Up! 切磋琢磨』

One Up (ワンナップ) は「一歩リードすること」。

千葉学芸高校として26年目。本年度のスローガンは「切磋琢磨」とした。

切磋琢磨とは、仲間同士互いに励まし合い競い合いながら向上すること昔の事柄を調べなおしたり

考えなおしたりして、新たに新しい道理や知識を探り当てること。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実／個人の道徳・学力は個別の学びによって成長するが、協働的学びでは互いの知識やスキルを共有しながら学ぶ。「切磋琢磨」を基調として、互いが持つ異なる視点やスキルを認め、それを活用しながら、相互の影響を受けつつ自分の課題に集中し成長を図ることを期待する。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校 〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地 TEL 0475-52-1161 FAX 0475-52-1163 インターネット http://www.cgh.ed.jp/ 電子メール info@cgh.ed.jp	令和6年度 学級数・生徒数 1学年 4学級 116名 2学年 4学級 118名 3学年 4学級 132名 全校 12学級 366名
--	---

学校の概要については、インターネットホームページで公表。また、コースガイド、創立130周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、令和8年度学校要覧（冊子全80頁、関係者向け5月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（令和7年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

特に重要な課題として、生徒募集およびICT教育の2つを取り上げる。

概況

秋季大会ベスト8やプロ野球選手輩出などの実績で千葉県内でも強豪校の一角となった野球部を目指して入学する生徒も多く全校の20%近くを占める。50年を越える伝統があるゴルフ部、千葉県唯一のフルコンタクト空手部は全国大会出場の実績をあげている。コース別の授業も充実しているが、公務員コースは志願者が毎年数名程度で少ないものの、市役所採用や警察官・自衛官などの進路へ着実に卒業生を輩出している。福祉コースは、累計599名の有資格者を輩出し、普通科高校としては全国でも群を抜く実績を続けている。令和6年度から東金市内のゆりの木苑と提携し、研修費を抑制しながら介護員養成研修を持続的に実施している体制の構築を目指している。情報コースではDXハイスクールの継続指定を受け、データサイエンスを扱うなど、AIが台頭する世相の中で着実に役立つ知識技能の育成に努めている。生徒海外研修は応募が少なく催行中止、富士登山は希望制にて実施。夏期研修は10年ぶりに福島県のルネサンス棚倉で実施した。

卒業式は来賓94名、保護者170名の参加で盛大に挙行することができた。

生徒募集状況の課題

令和7年度の新入学生徒数は前年－14名であり、10.8%減であった。前年・前々年は－17、－3であり大幅ではないものの減少は顕著である。近郊の中学卒業生数が減少する中で、近隣公立高校の定員が過剰気味のため厳しい状況が続いており、私学の定員割れが続くなど環境が悪化する中でも、広報部を中心に生徒募集の努力をしたが、募集定員の41パーセントに留まった。他方、ICT環境の充実や丁寧な指導などへの評価は高く、野球部の広範囲からの生徒募集、芸能コースなどのユニークな教育活動、全国でも少ないフルコンタクト空手部への入学希望などが好材料となっている。個々の生徒への丁寧な指導についての地域からの評価も高い。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主である。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高める必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消にも努めている。

生徒募集にあたり、SNS、動画サイトでの悪意ある中傷の影響が一部にみられ、実施者を特定し告発するなど名誉回復の法的措置をとりつつ、地道な善行活動を通じて風評被害の払拭に努めている。

今後も、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も若い世代に移行しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分に知られていない懸念がある。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。公立の動向も注視し、展望をもって取り組んでいきたい。千葉県教育庁による高等学校再編計画において山武地域をはじめとする郡部での公立高校の将来計画について大幅な定員未充足状態の公立高校の統合などが議論されており今後の動向を注視したい。

ICT教育

令和6年度・7年度に文部科学省から継続して研究指定を受けたDXハイスクール事業により、初年度1000万円、2年目500万円、3年目（令和8年度）300万円の助成を受けて、ICT教育環境の整備を行った。また、IT補助金（私立高等学校等ICT教育設備整備推進事業費）によりコンピュータ機器の整備、特に生徒用タブレット端末の更新を行った。さらに施設高機能化補助金によるコンピュータネットワーク環境の整備も展開しAL（アクティブラーニング）教室の整備も実施している。これらの補助事業を適時に活用して、校内ICT教育設備の整備を持続的に展開しており、全国屈指のICT教育設備環境を構築し、教育水準を維持している。

また、生成型AIが社会的に浸透しはじめ、学校教育にも徐々に導入が進められている中で、OPEN AI社のChat GPT。Anthropic社のClaude、Google社のGeminiなどの大規模言語システムの活用についても研究を進めており、特にGoogle Educationのライセンスの中でほぼ無償で利用できるGeminiを中心とした学習活用を重視しているほか、DXハイスクール事業で購入したスーパーコンピュータ（高スペックPC）でローカルLLMとよばれる独自のAIシステムを稼働し、安価でセキュリティの高い運用も行えるようにしており、AI活用時代の教育インフラとして高度な機能を備えることができた。

ドローンプログラミング体験講座、郡内中学校への出前授業を実施して中学生へのPRも展開しつつ、情報科における高校1年生からの情報の授業や、情報コースでの専門科目による授業、また、選択教科情報、コンピュータ部の活動を通じて、基礎から応用まで、生徒のニーズに応じて学ぶことができる機会を提供し、実力を育てている。

折しも2025年から大学入学共通テストにおいて情報Ⅰが科目追加され、高校で情報科を学ぶ意義がより高まっているので、先進的なICT教育設備を活用して情報教育を展開していく意義は深いものと考えている。

施設設備の拡充

（1）AL（アクティブラーニング）教室の設置

A棟3階のLL教室を改装し、壁面全体をスクリーンとして映像やICTを活用した探究・発表などの多様な学習活動を展開するアクティブラーニングに対応した教室を整備した。視聴覚室とLL教室とコンピュータ教室の機能を併せ持つもので、授業のオンライン配信にも対応することから、教室内で着席する生徒とオンラインで視聴参加する生徒に同時に授業を展開する「ハイフレックス授業」にも対応している。

教室広報の空間はe-スポーツ機材の専用スペースとしてコンピュータ部を中心とする活動が展開できる。また、ドローン（飛翔型ロボット）のプログラミング制御を行う実習も展開される。多様な授業形態や探究学習の促進に役立てるものとして、国の補助金を得て設置した。

（2）校庭臨地の整備

校庭東側に購入した宅地内の廃屋を撤去し、芝生広場を設置した。小運動場として役立てるほか、井戸を設置し災害時の利用も想定したスペースとしている。

東金青少年自然の家（東金青年の家）が閉所となり、弓道の練習場がなくなるため、裏グラウンドに簡易の移動型弓道場設備を設置した。

災害

自然災害による損害は軽微（台風）であった。

栄誉の記録

・全国大会出場 空手部（3位）、ゴルフ部、美術部

学校評価報告書（千葉学芸高等学校）

- ・ 関東大会出場 自転車競技部、ゴルフ部、空手部

B. 部門ごとの評価（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校運営会議 中止（コロナ禍以降不開催、高齢化）。

生徒（2～3月）にWebフォームにより学校評価アンケートを実施。保護者は5月父母の会時に実施。

以 上